編集委員会便り

本号では，最近話題になることの多いデマンドサイド・マネジメントの特集を組んだ．デマンドサイド・マネジメントに関しては，他学会誌でもすこしずつ解説や特集が組まれるようになってきているが，まだそれほど多く見かけるわけではない．それゆえ，まだそれほど一般によく知られているわけでない．比較的ホットな話題である．

デマンドサイド・マネジメントは，以前はロードマネジメントあるいはロードレベリングなどとよばれていたが，最近ではその概念が拡大しているようである．ロードマネジメントはどちらかといえば供給側が一方的に需要を管理するという雰囲気が強かったが，デマンドサイド・マネジメントでは需要家と供給側が一体になってあるいは協調することによって望ましい電力の需給構造を築いていくという意味が込められていると言われている．しかし，電気事業側から見ればそのような傾向が出てきたと言うことであって，まだ発電部門も電力輸送部門も地域独占している電気事業と需要家を対比すれば，どう見ても対等というようなことはなく，負荷を管理するという傾向があることは認めざるを得ない．

このようなデマンドサイド・マネジメントのような概念が盛んになってきた背景の一つの要因は電力供給力が需要の伸びに対応することが容易でなくなったことがあげられるが，このような状況は自家発を含めた各種の分散型電源の発電部門への競争的参入を促す可能性があるので，需要家と電気事業の関係は将来はかなりかわってくるのかもしれない．

現在の電気料金制のなかでも実質的にかなりのデマンドサイド・マネジメントがなされているようにもみえるが，これからはきっとかなり重要な概念となってくるに違いない．デマンドサイド・マネジメントに関する研究や実施例は米国で多数見受けられるが，日本でもこれから本格的に盛んになるのか，米国並みの諸制度が導入される可能性があるのか見守っていきたい．

我が国においてデマンドサイド・マネジメントに関心を持つ人々は増加しているが，その専門家はまだわずかである．本特集ではその数少ない専門家のかなりをカバーしたようである．電気事業以外の産業としてガス事業の方にも執筆をお願いしたが，特集を組む過程においてさらに交通部門なども含めたらどうかという意見もいただいたた．残念ながら特集のページ数の制約と適切な執筆者の選択が容易でなかったので今回は見送ったが，産業の範囲を広げてみるのは興味あることであるし，また本学会向きかもしれない．適切な情報があれば是非お知らせ願えると幸いである．

本特集を組むに当たり執筆者をはじめとして多くの方にお世話になった．深くお礼を申し上げたい．

斎　藤　雄　志
（専修大学経営学部教授）